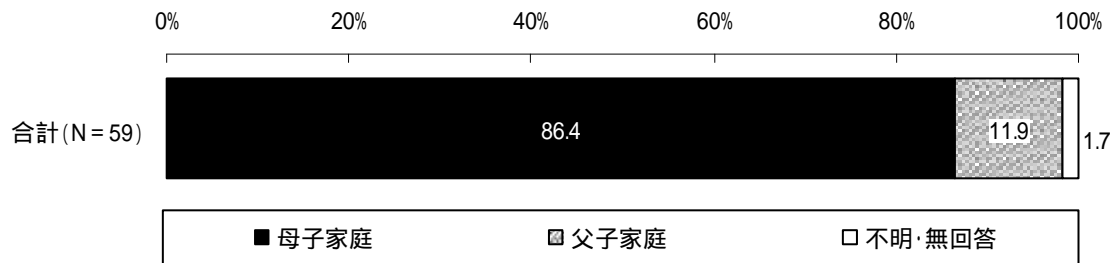


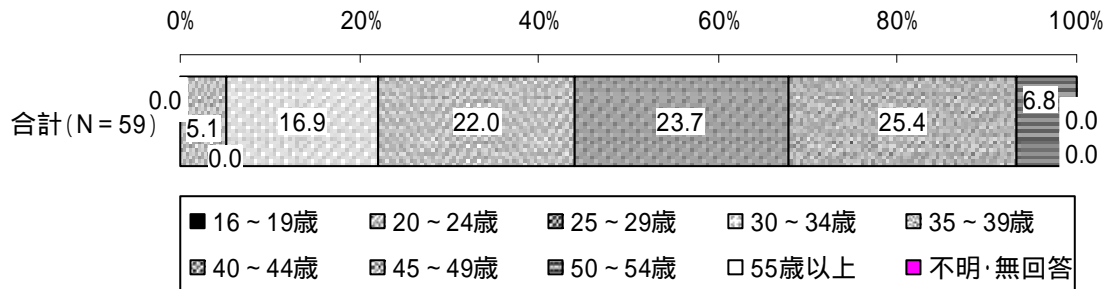
# 調査結果 (ひとり親家庭調査)

# 1 回答者の属性

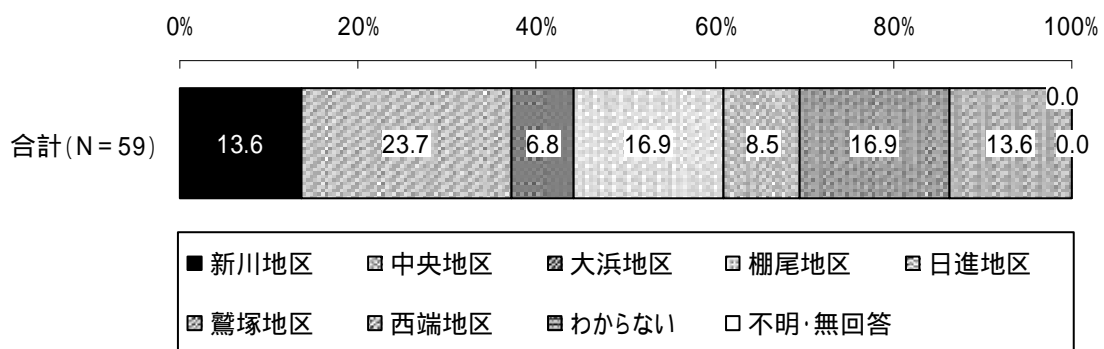
## (1) 家庭の種別 (単数回答)



## (2) 回答者の年齢 (単数回答)

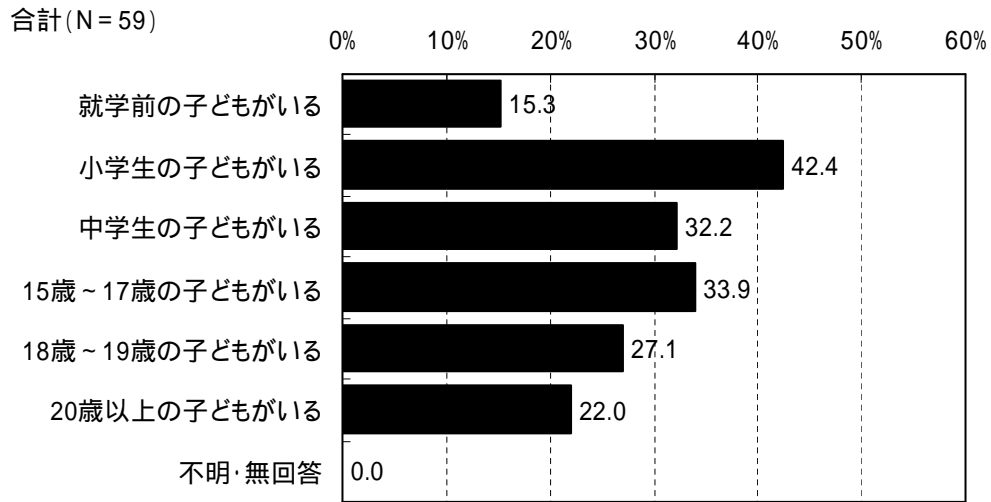


## (3) 居住地区 (単数回答)



(4) 子ども数及び年齢(複数回答)

子どもの有無では、「小学生の子どもがいる」が42.4%と最も高くなっています。



子どもの数

	就学前	小学生	中学生	15～17歳	18～19歳	20歳以上
1人	8	18	16	17	15	8
2人	1	6	3	3	0	4
3人以上	0	1	0	0	1	1

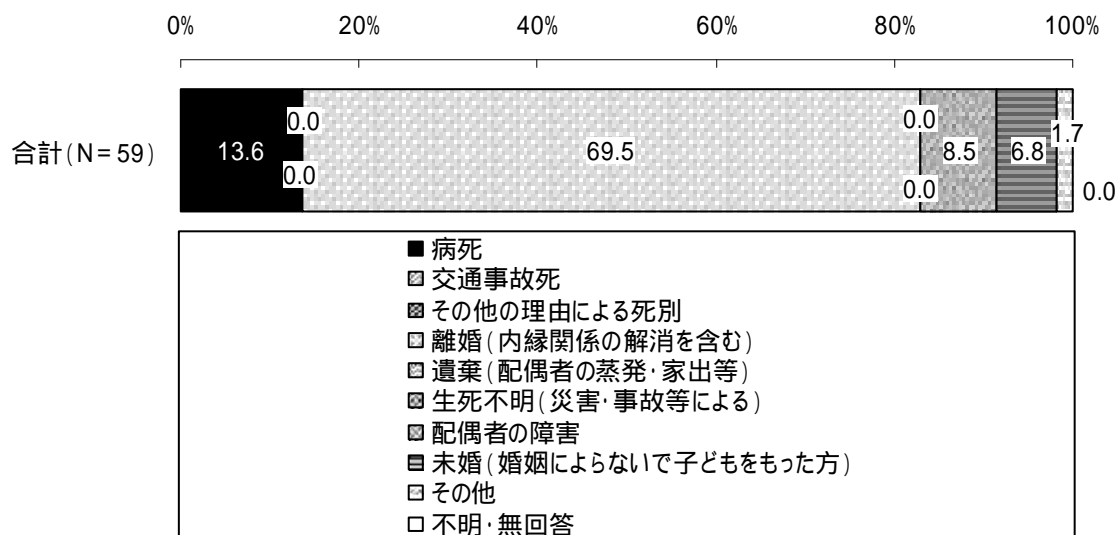
(5) 子ども以外に同居している人(複数回答)

子ども以外に同居している人では、「いない」が61.0%と最も高く、次いで「父母」が33.9%となっています。



### (6) ひとり親家庭になった理由(単数回答)

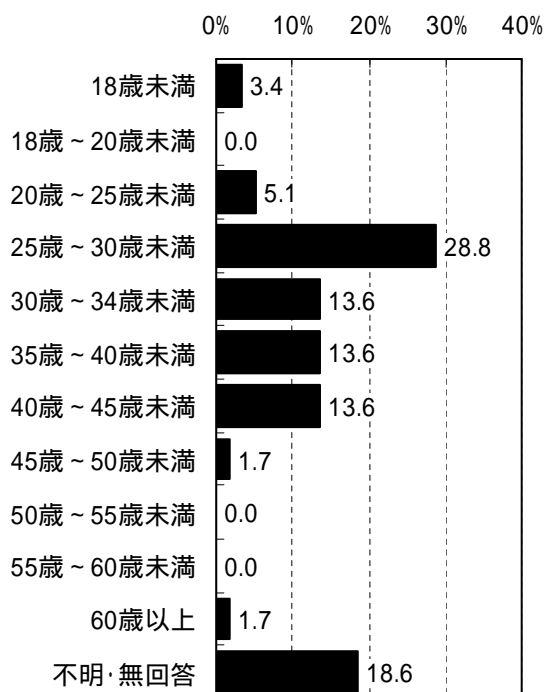
ひとり親家庭になった理由では「離婚(内縁関係の解消を含む)」が69.5%と最も高く、次いで「病死」が13.6%となっています。



### (7) ひとり親家庭になった当時の回答者の年齢(数量回答)

ひとり親家庭になった当時の年齢では「25歳～30歳未満」が28.8%と最も高くなっています。

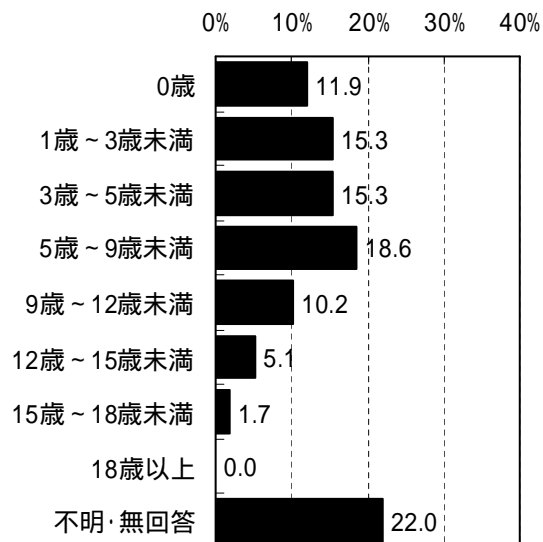
合計(N=59)



### (8) ひとり親家庭になった当時の子どもの年齢(数量回答)

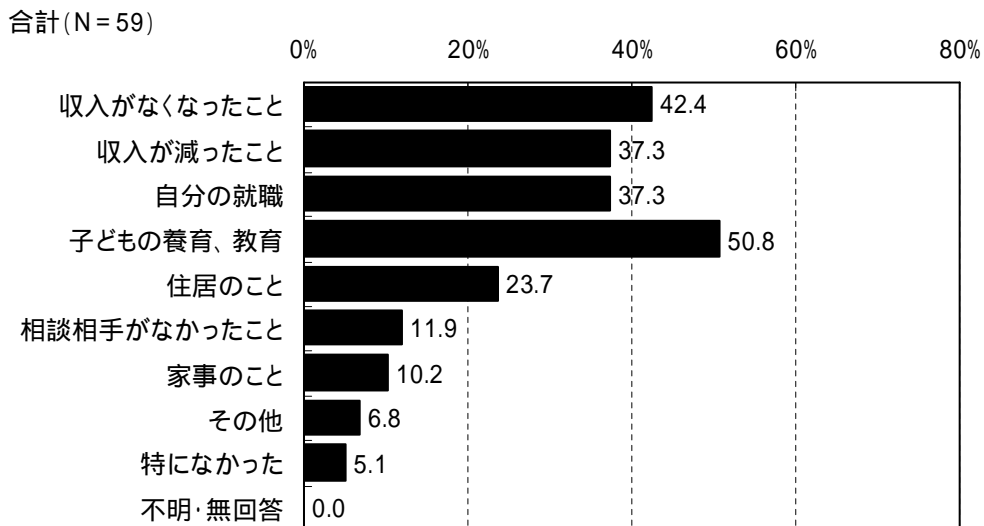
ひとり親家庭になった当時の子どもの年齢では「5歳～9歳未満」が18.6%と最も高くなっています。

合計(N=59)



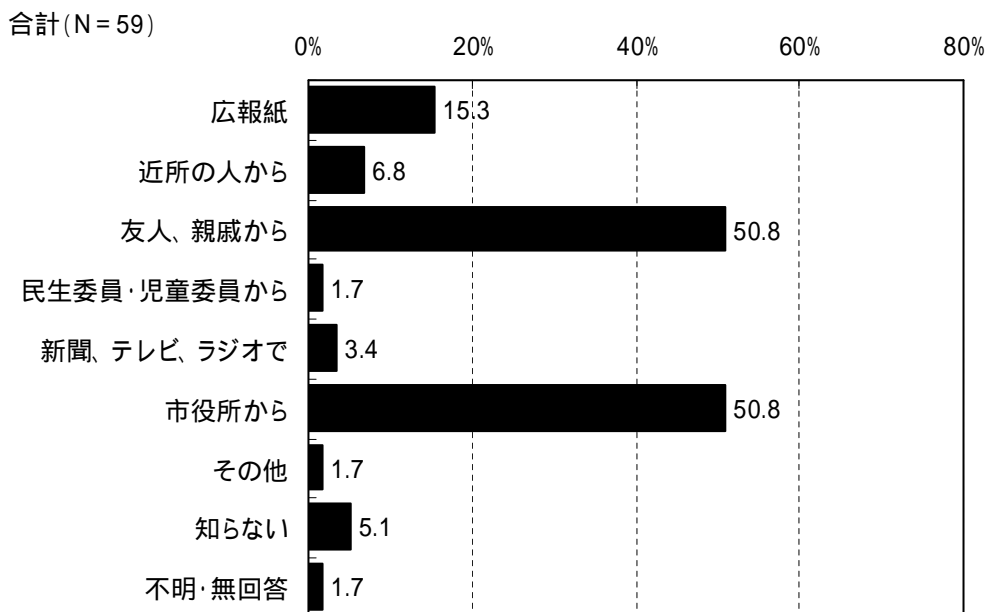
### (9) ひとり親家庭になって困ったこと(複数回答)

ひとり親家庭になって困ったことでは「子どもの養育、教育」が50.8%と最も高く、次いで「収入がなくなったこと」が42.4%、「収入が減ったこと」「自分の就職」がともに37.3%となっています。



### (10) 手当や年金などの援護施策を知った方法(複数回答)

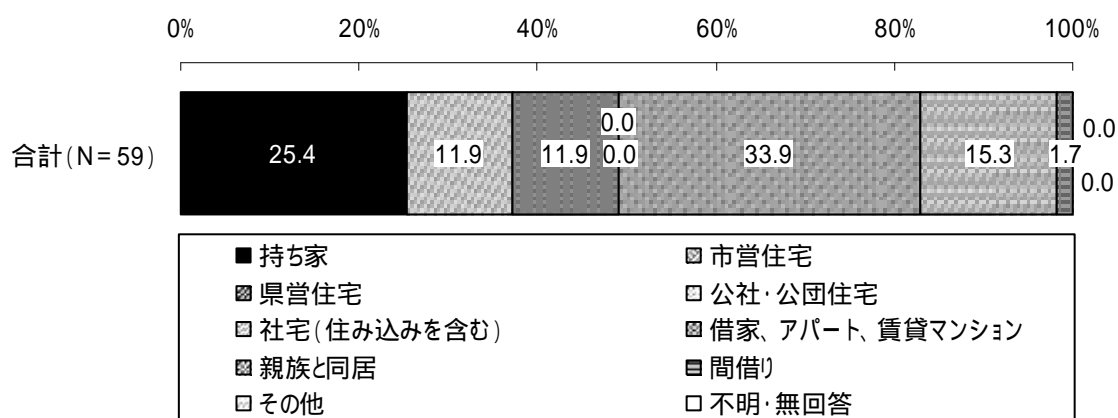
手当や年金などの援護施策を知った方法では「市役所から」「友人、親戚から」がともに50.8%と最も高くなっています。



## 2 住まいについて

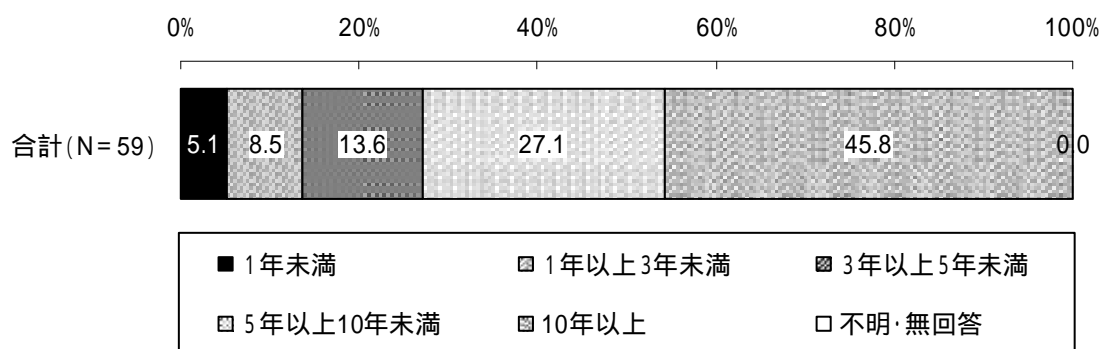
### (1) 現在の住まい(単数回答)

現在の住まいについてみると、「借家、アパート、賃貸マンション」が33.9%と最も高く、次いで「持ち家」が25.4%となっています。



### (2) 現在の住まいに住んでいる期間(単数回答)

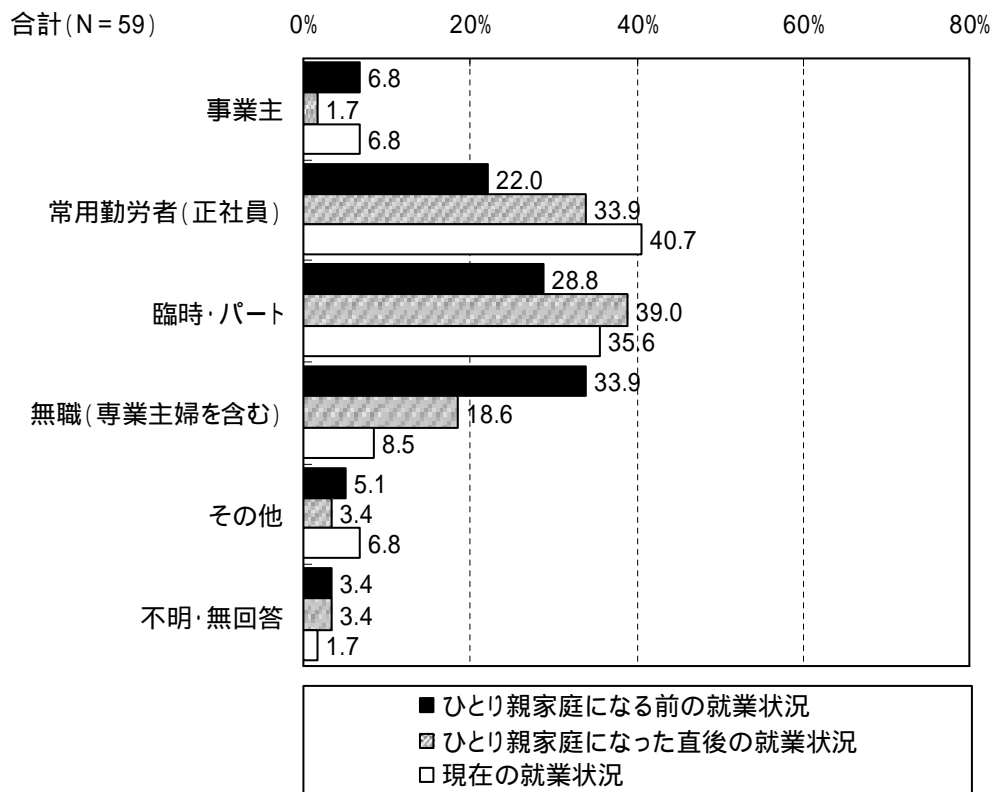
現在の住まいに住んでいる期間についてみると、「10年以上」が45.8%と、最も高くなっています。



### 3 就労状況について

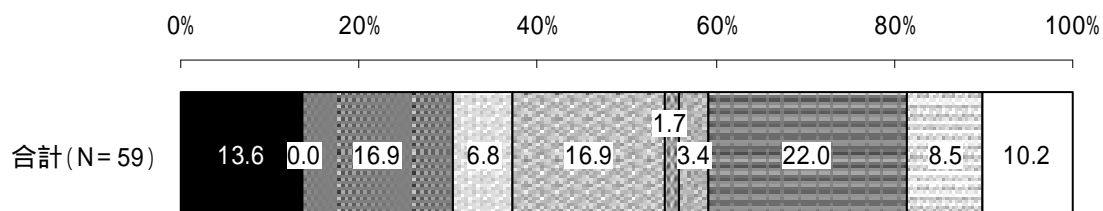
(1) 「ひとり親家庭になる前」「ひとり親家庭になった直後」「現在」の就業状況  
(単数回答)

「ひとり親家庭になる前」「ひとり親家庭になった直後」「現在」の就業状況についてみると、「ひとり親家庭になる前」は「無職(専業主婦を含む)」が33.9%と最も高くなっていますが、「ひとり親家庭になった直後」は「臨時・パート」が、「現在」は「常用勤労者(正社員)」がそれぞれ最も高くなっており、状況によって就労や雇用の形態が変化していることがわかります。



## ( 2 ) 現在の仕事 ( 単数回答 )

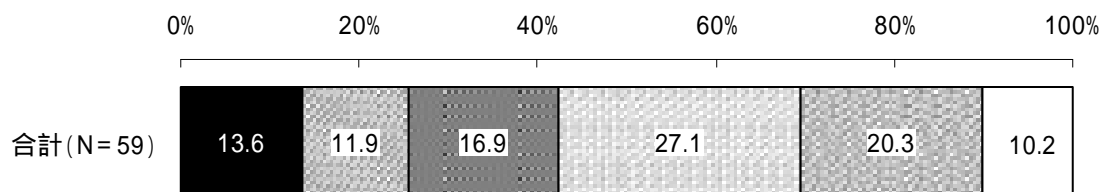
現在の仕事は、「製造・技能・労務の仕事 ( 製造技能工、建設技能工など )」が 22.2% と最も高くなっており、次いで「事務的な仕事 ( 一般事務、経理事務、医療事務など )」、「サービスの仕事 ( 飲食店員、清掃員など )」がともに 16.9% となっています。



- 専門知識・技術を生かした仕事 ( 教員、ホームヘルパー、看護師、美容師、プログラマーなど)
- ▣ 管理的な仕事 ( 会社の役員、管理職など)
- ▤ 事務的な仕事 ( 一般事務、経理事務、医療事務など)
- 営業・販売の仕事 ( 商店店員、セールス、外交員など)
- ▥ サービスの仕事 ( 飲食店員、清掃員など)
- ▧ 農林漁業の仕事
- ▨ 運輸・通信の仕事 ( タクシー運転手、電話交換手など)
- ▩ 製造・技能・労務の仕事 ( 製造技能工、建設技能工など)
- その他
- 不明・無回答

## ( 3 ) 現在の仕事の勤続年数 ( 単数回答 )

勤続年数は「5年以上10年未満」が 27.1% と最も高くなっています。

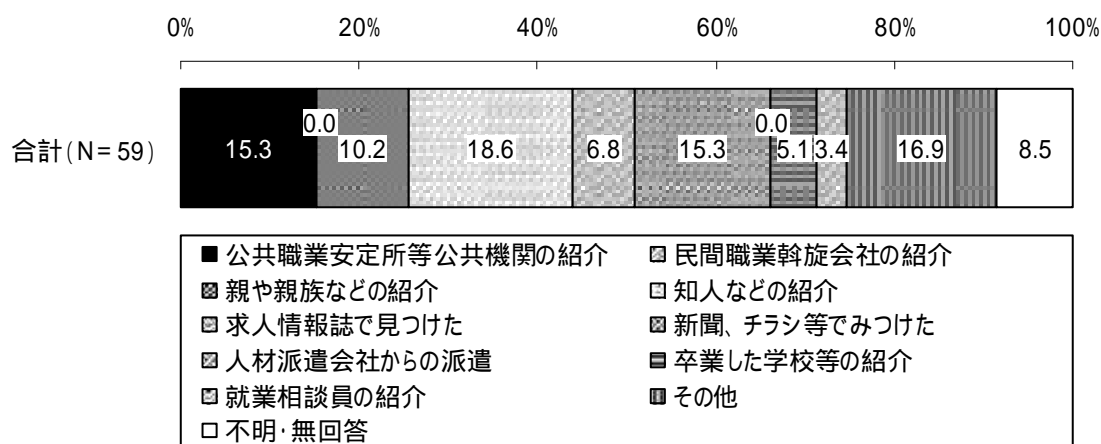


- 1年未満
- ▣ 1年以上3年未満
- ▤ 3年以上5年未満
- ▥ 5年以上10年未満
- ▧ 10年以上
- 不明・無回答



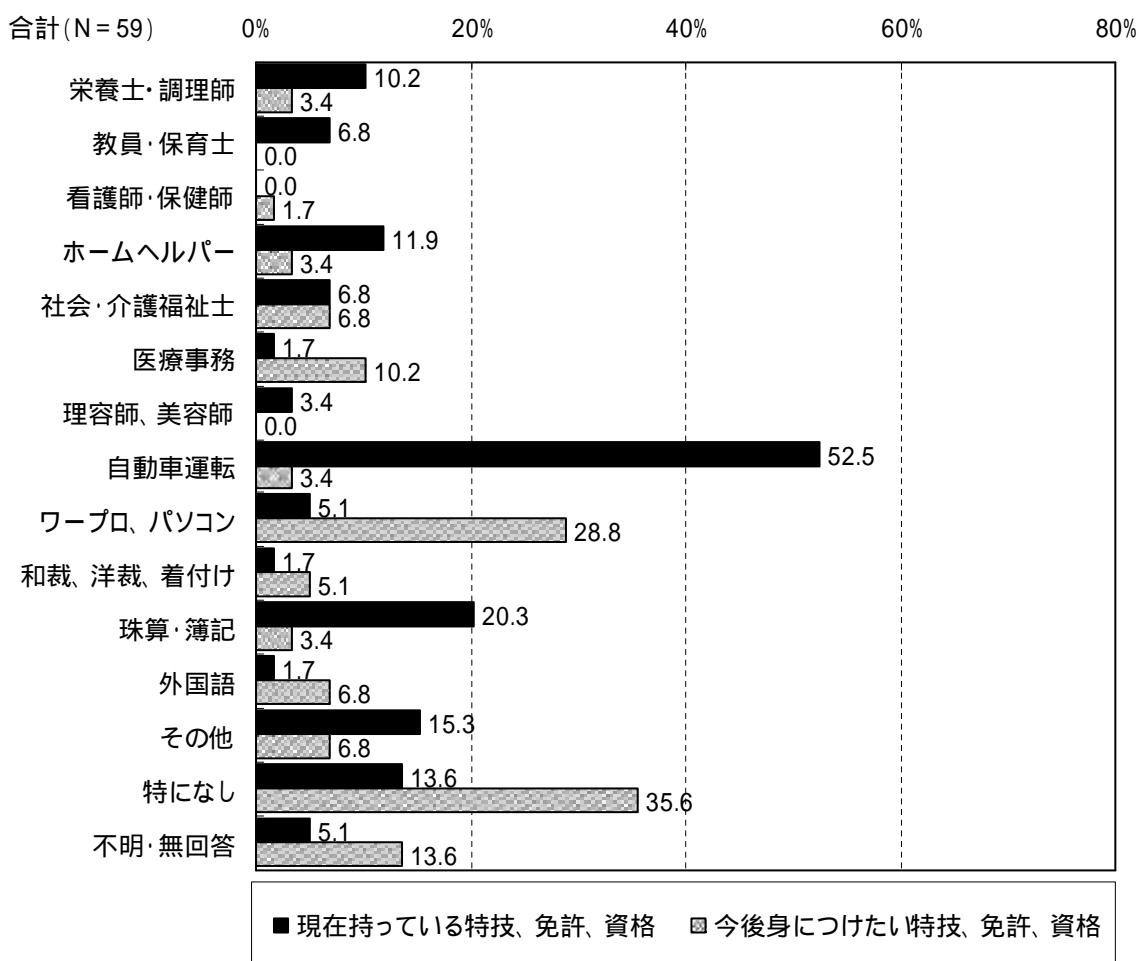
#### (4) 現在の仕事を見つけた経緯 (単数回答)

現在の仕事を見つけた経緯では、回答が分散していますが、「知人などの紹介」が18.6%と最も高くなっています。



#### (5) 持っている特技、免許、資格と身につけたい特技、免許、資格 (複数回答)

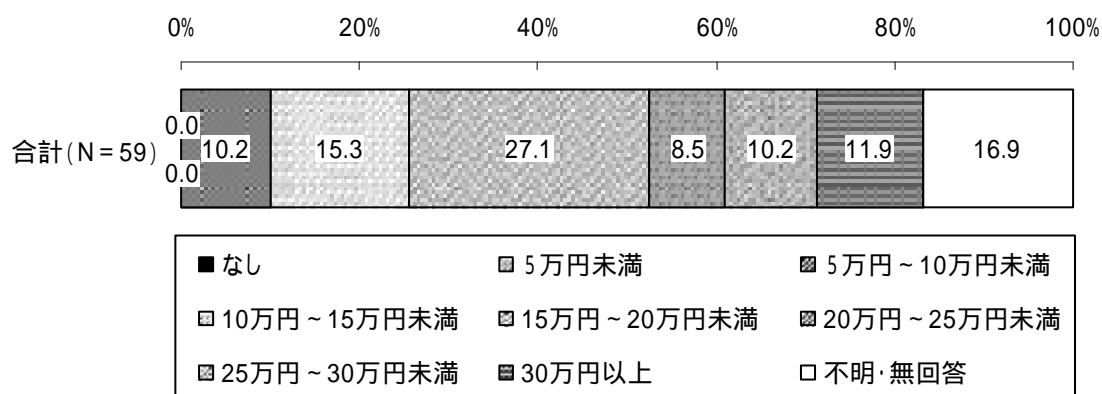
特技、免許、資格については、現在持っているものでは「自動車運転」が52.5%と最も高くなっています。また、今後身につけたいものでは「特になし」が最も高くなっていますが、次いで「ワープロ、パソコン」が28.8%となっています。



## 4 家計の状況について

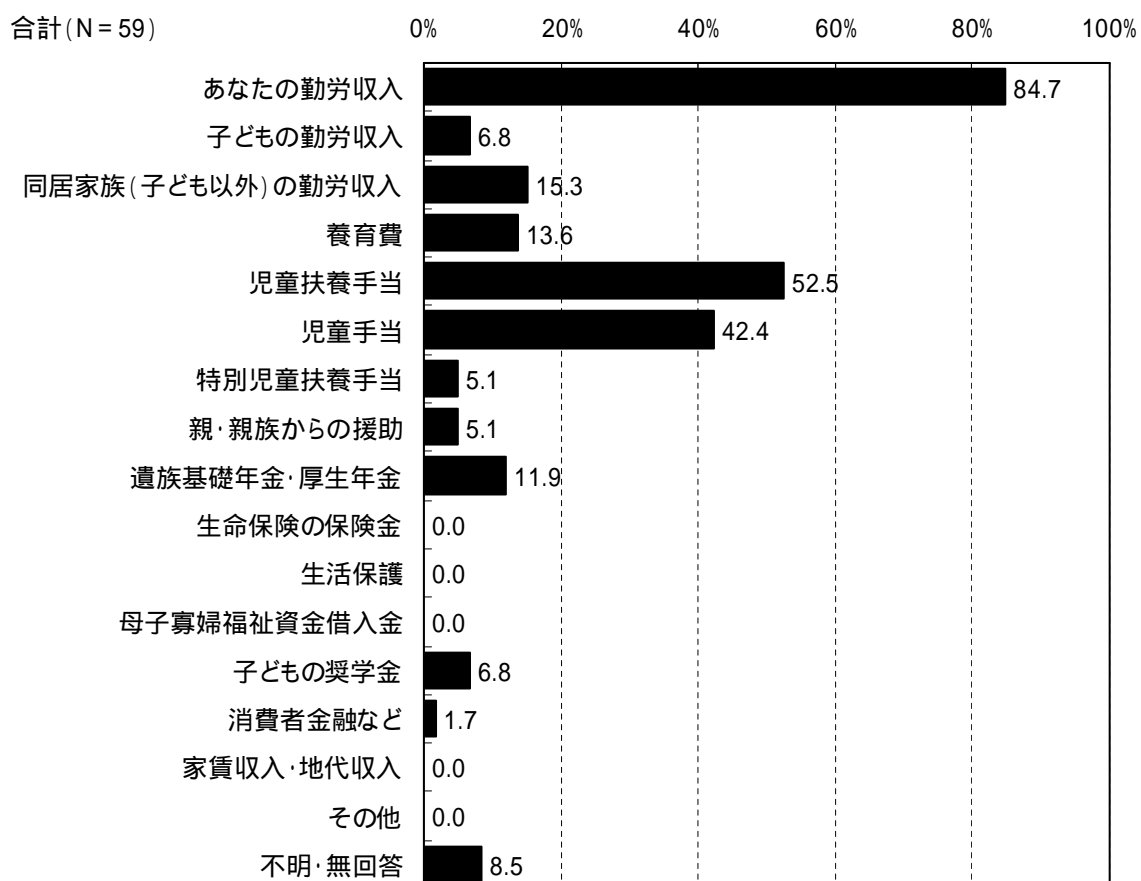
### (1) 世帯全体の1か月の収入（単数回答）

1か月の世帯全体の収入では、「15万円～20万円未満」が27.1%と最も高くなっており、次いで「10万円～15万円未満」が15.3%と続いています。



### (2) 現在の世帯の収入源（複数回答）

世帯の収入源では、「あなた（回答者）の勤労収入」が84.7%と最も高く、次いで「児童扶養手当」が52.5%、「児童手当」が42.4%となっています。

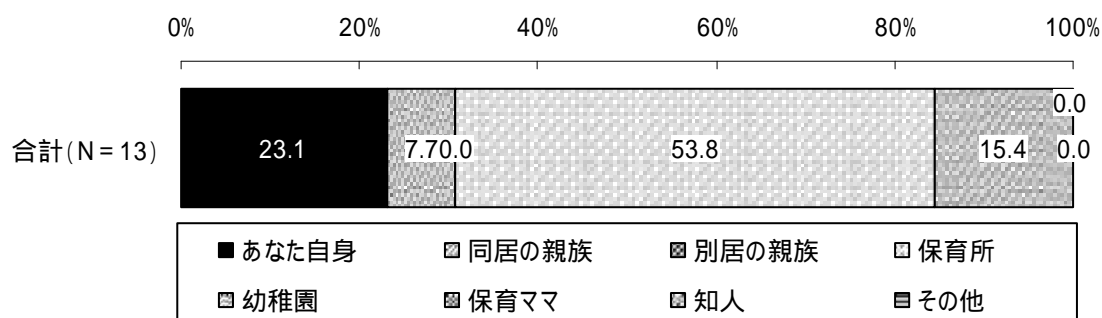


## 5 子育ての状況について

### (1) 就学前の子どもの主な保育者（単数回答）

\* 不明・無回答者を除く

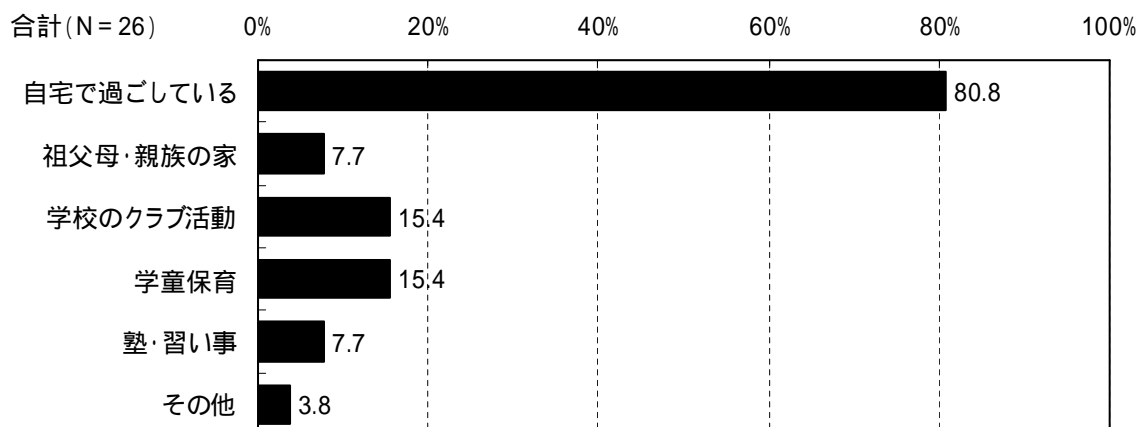
就学前の子どもの主な保育者では、「保育所」が53.8%と最も高くなっています。



### (2) 小学生の子どもの主な放課後の過ごし方（複数回答）

\* 不明・無回答者を除く

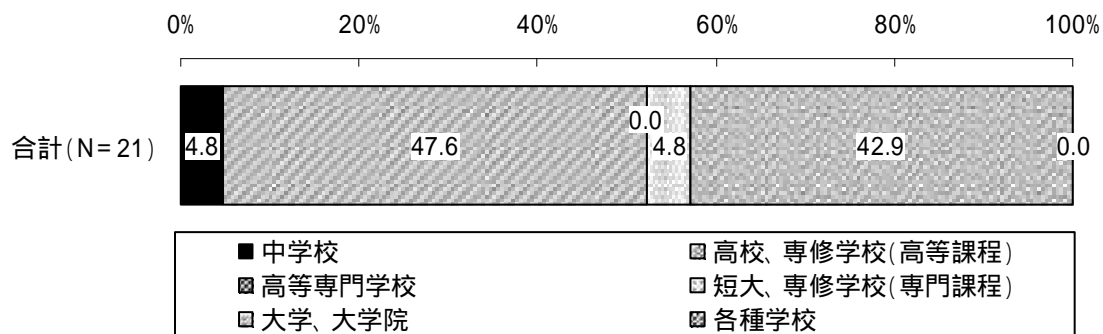
小学生の子どもの主な放課後の過ごし方では、「自宅で過ごしている」が80.8%と群を抜いて高くなっています。



( 3 ) 望む中学生の子どもの進路 ( 単数回答 )

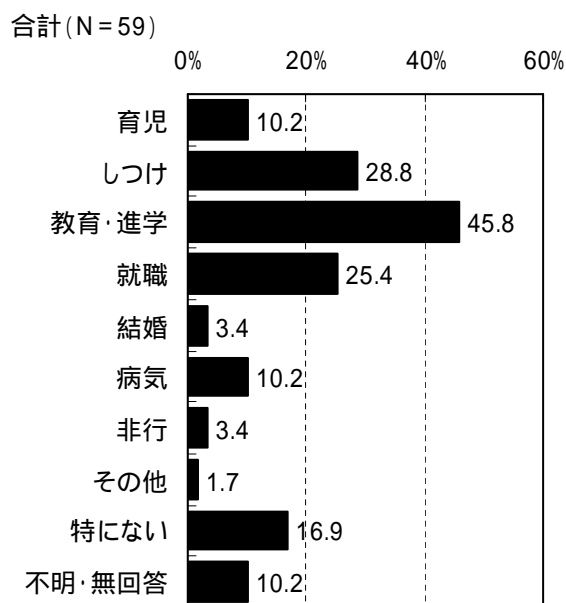
\* 不明・無回答者を除く

望ましい進路としては、「高校、専修学校 ( 高等課程 )」が 47.6% と最も高く、次いで「大学、大学院」が 42.9% となっています。



( 4 ) 子育ての悩み ( 複数回答 )

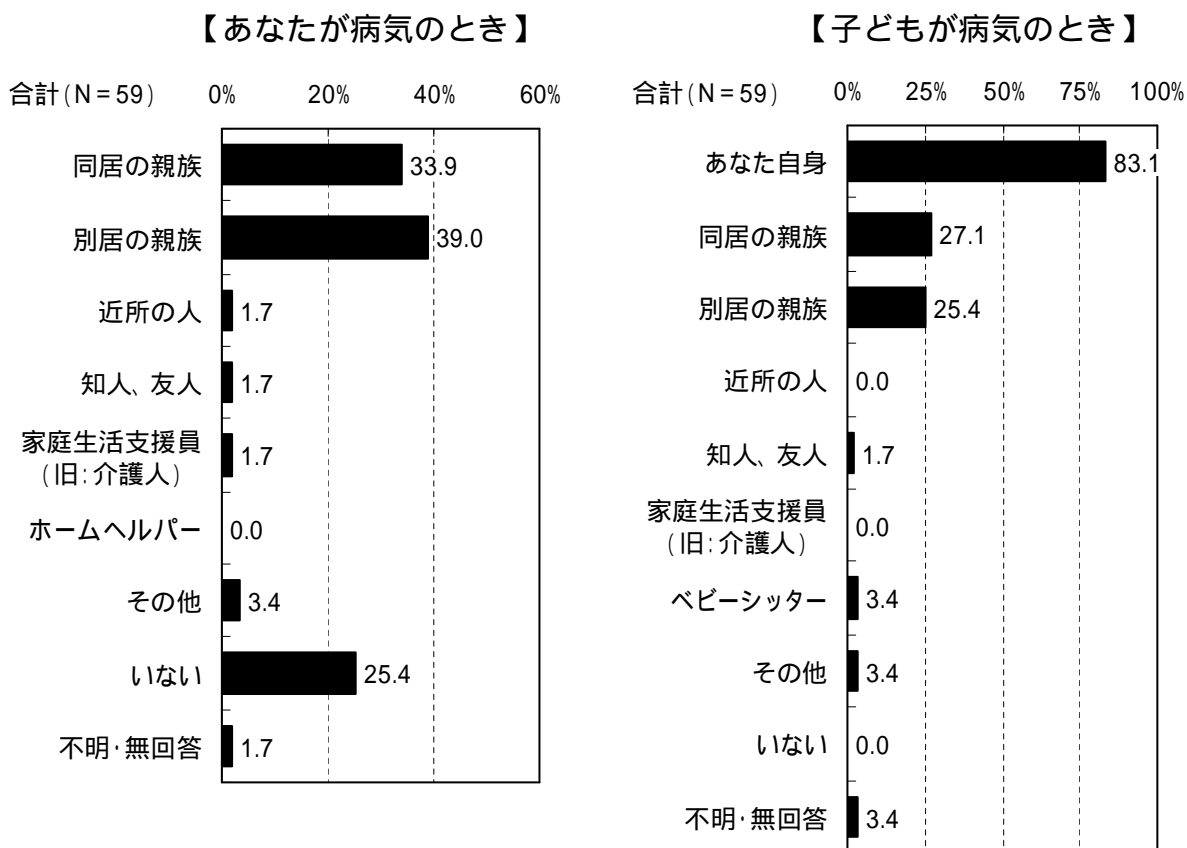
子育ての悩みでは「教育・進学」が 45.8% と最も高く、次いで「しつけ」が 28.8%、「就職」が 25.4% となっています。



( 5 ) 病気などの際の主な世話人 ( 複数回答 )

病気などの際の主な世話人では「あなた ( 回答者 ) が病気の時」では「同居の親族」「別居の親族」がともに 30% を超えて高くなっていますが、「いない」も 25.4% 見られます。

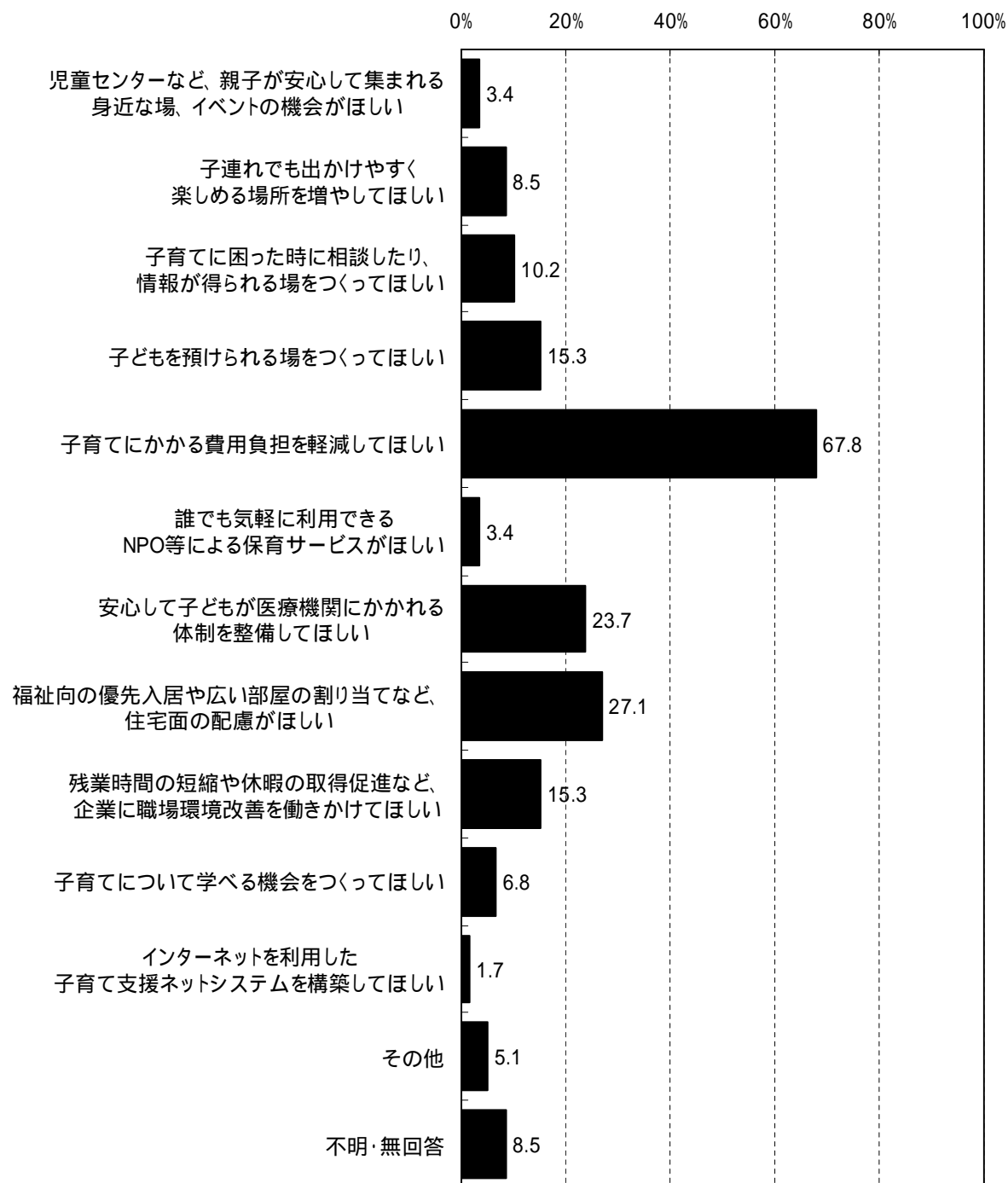
また、「子どもが病気の時」では「あなた ( 回答者 ) 自身」が 83.1% と、群を抜いて高くなっています。



( 6 ) 行政に望む子育て支援施策 ( 複数回答 )

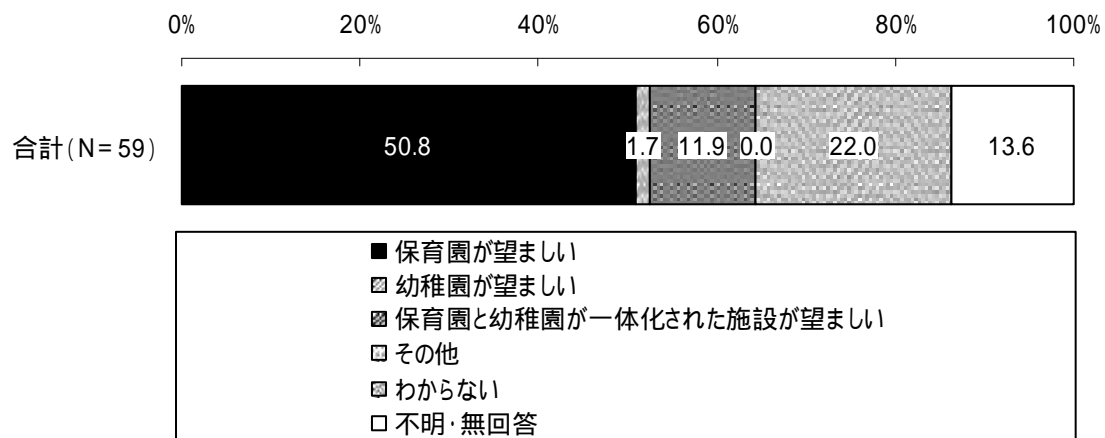
行政に望む子育て支援施策では、「子育てにかかる費用負担を軽減してほしい」が67.8%と、群を抜いて高くなっています。

合計 ( N = 59 )



(7) 子どもを保育所や幼稚園などに預ける場合の望ましい場所(単数回答)

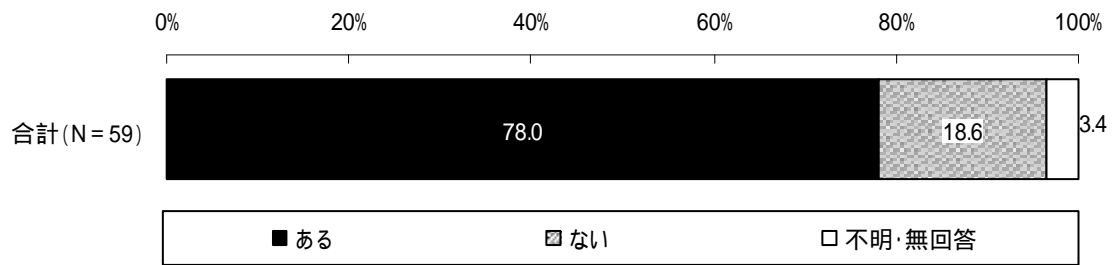
子どもを預ける望ましい場所では、「保育園が望ましい」が50.8%と、約半数を占めています。



## 6 生活全般について

### (1) 現在の悩みの有無（単数回答）

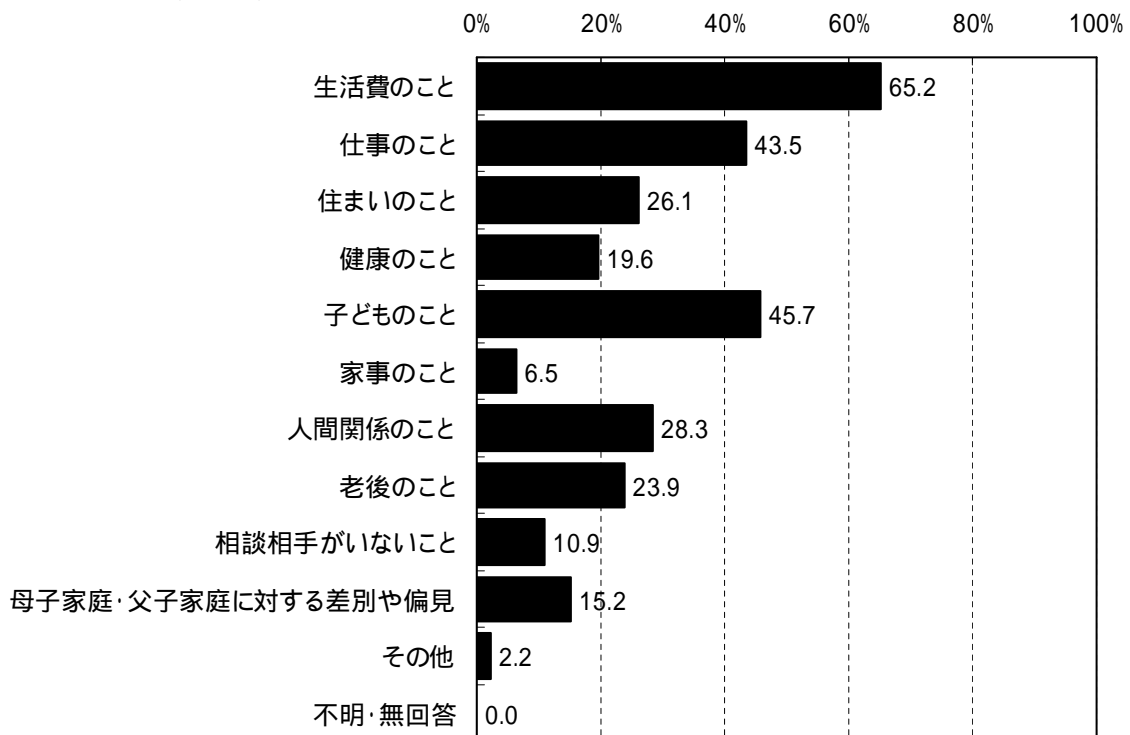
悩みについては、「ある」が78.0%と、大部分を占めています。



### (2) 現在の悩みの内容（複数回答）

悩みの内容では、「生活費のこと」が65.2%と最も高く、次いで「子どものこと」が45.7%、「仕事のこと」が43.5%となっています。

悩みが「ある」方(N=46)

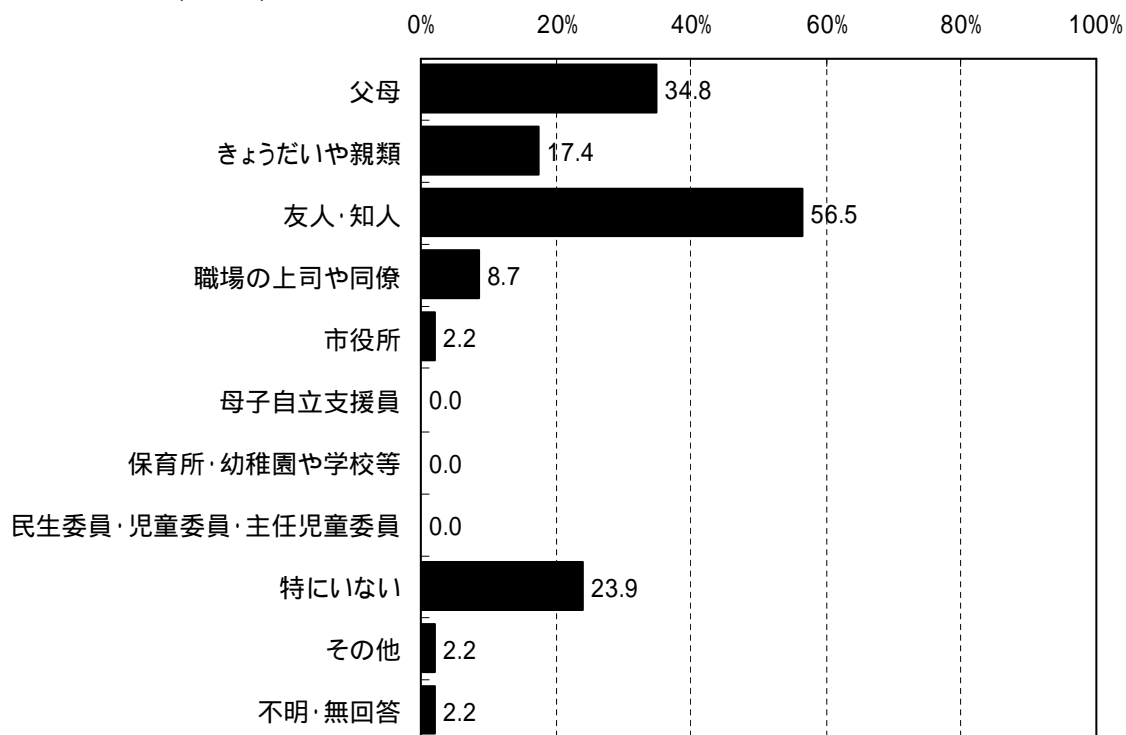




### (3) 悩みの相談相手（複数回答）

悩みの相談相手では、「友人・知人」が56.5%と最も高く、次いで「父母」が34.8%となっています。

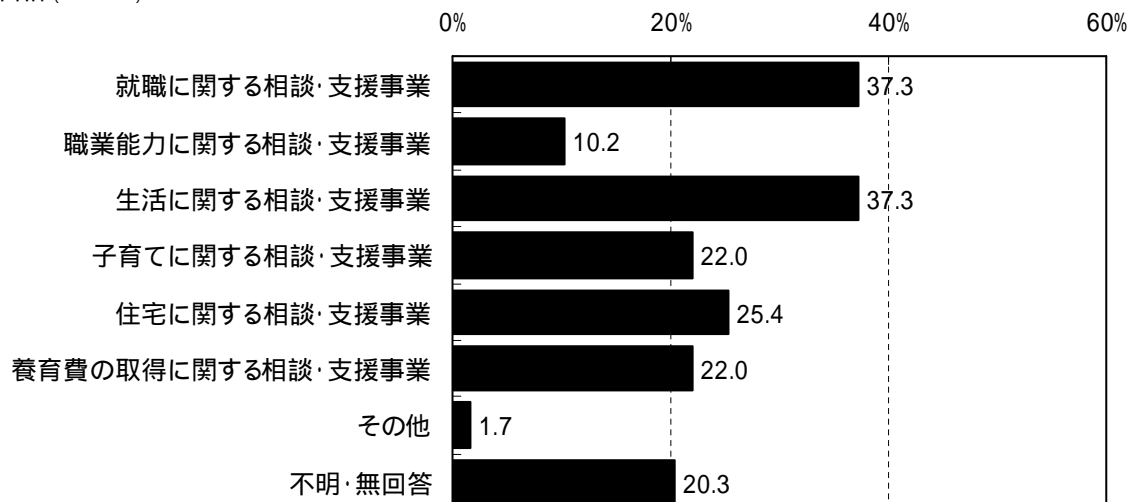
悩みが「ある」方(N=46)



### (4) 県・市町村における母子家庭・父子家庭の方を対象とした相談・支援事業に期待すること（複数回答）

母子家庭・父子家庭の方を対象とした相談・支援事業に期待することでは、「就職に関する相談・支援事業」「生活に関する相談・支援事業」がともに37.3%と最も高くなっています。

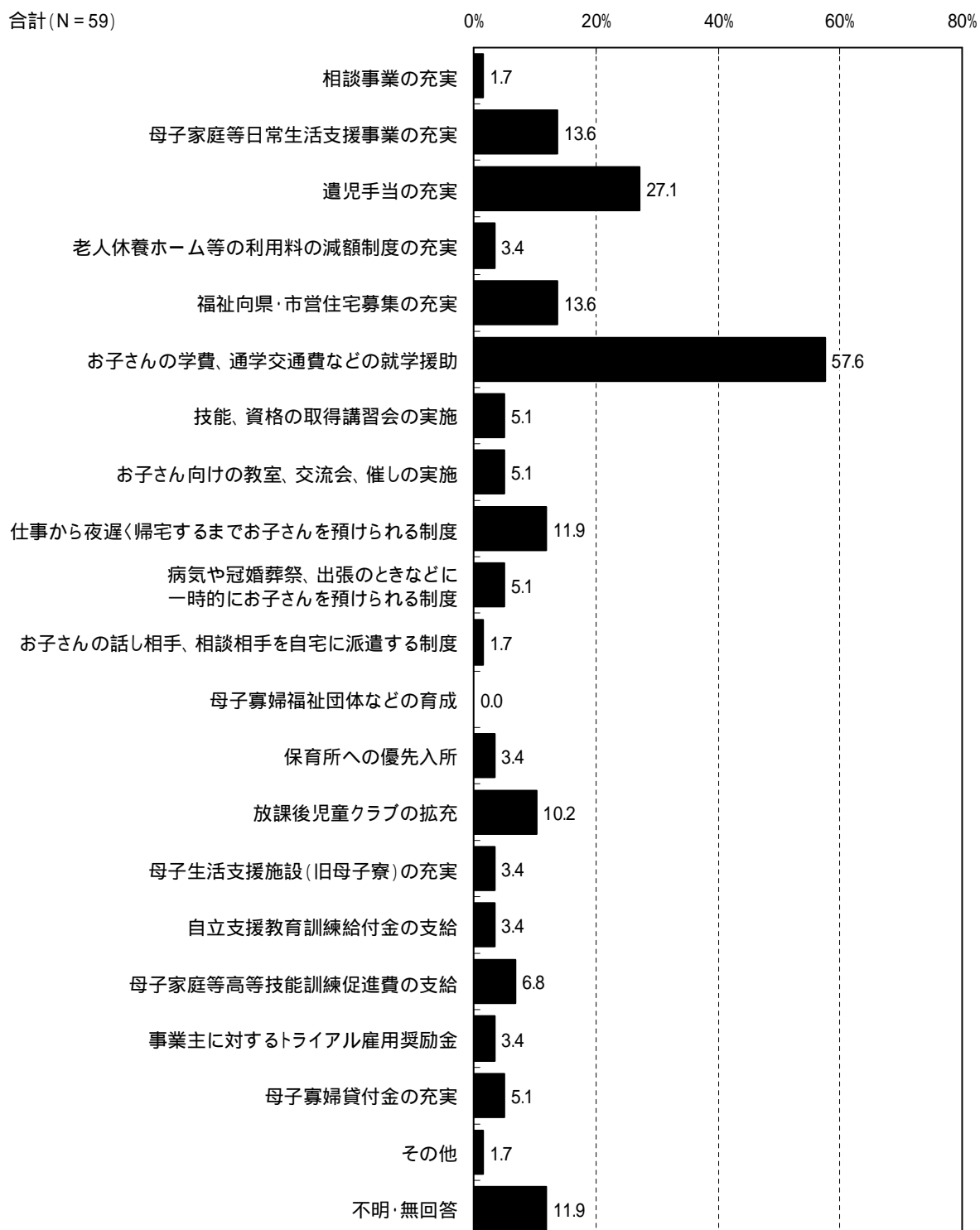
合計(N=59)



( 5 ) 県・市町村の施策等で要望すること(複数回答)

県・市町村の施策等で要望することでは、「お子さんの学費、通学交通費などの就学援助」が57.6%と最も高く、次いで「遺児手当の充実」が27.1%となっています。

経済的な支援施策を求める回答が高くなっています。



---

碧南市  
次世代育成支援に関する意識調査  
【結果報告書】

発行年月 平成 21 年 3 月

発 行 碧南市

〒447-8601

愛知県碧南市松本町 28 番地

TEL : 0566-41-3311

FAX : 0566-48-2940

---